

平成20年度豊かな体験活動推進事業(「学校教育における人間力向上のための
長期宿泊体験活動推進事業～仲間と学ぶ宿泊体験教室～」)

【三沢高等学校・宿泊に関わる体験活動】

ハワイ語学研修旅行

青森県立三沢高等学校 2年英語科

1. 活動の概要

(1) 活動のねらい

英語圏での家庭滞在、現地の高校生とのプレゼンテーション交換などの交流活動に向けて1年次から準備を行う。英語科の専門科目は、ほとんどすべてグループ活動の中で互いに働きかけあうタイプの学習活動をする。班活動の中で生徒は自らの考えを発表しなければならないため、いろいろな意味で自分を全面に出すことが求められる。この活動は、団体生活のなかで必要不可欠な主体性、協調性、忍耐力等を磨く中で確かな語学力を身につけていくことを可能にする取組である。その活動を英語を用いて行うことにより、英語の4技能(聞く、話す、書く、読む)を実践的に発揮することをねらいとする。

(2) 活動の対象学年：2学年英語科、37名

2. 年間の活動の展開

体験活動の種類・内容	期間・日数単位時間数	教育課程上の位置付け	活動場所	児童生徒の活動の状況
事前研修 場面別英会話 プレゼンテーション準備 直前セミナー ポリネシア文化圏の歴史	4月～10月(15時間) 5月～11月(15時間) 11月4日(6時間) 11月6日(2時間)	LL演習 異文化理解 総合学習 世界史B	LL教室 LL教室 LL教室 2-7教室	4月の段階で活動ごとに班を決めたうえで準備活動にはいった。ハワイ文化紹介プレゼンテーション練習、日本文化紹介プレゼンテーション演習、プレゼンテーション原稿のための英語ライティング演習と段階を踏んで本校のALTの協力のもとに行うことができた。
実地研修 ハワイ語学研修 (1) 家庭滞在 (2) 文化交流 (3) 自主研修 (4) ホリネシア文化センター訪問	11月24日～26日(2泊3日) 11月27日(4時間) 11月26日(5時間) 11月27日(7時間)	特別活動(学校行事)	ホノルル市 滞在先家庭 交流先高校 市内名所 ホリネシア文化センター	例年であれば家庭滞先のペアが最ももめるが今回は比較的スムーズに運び、過年度生も含めて全員が全行程を楽しんだ様子であった。
事後研修				生徒全員に家庭滞在、自主研修、文化交流について英

報告会(1年英語科生を対象)	2月13日(2時間)	LL演習	LL教室	文で感想を書かせて記録集を作成。成果報告のプレゼンは1年英語科を対象としたため各班ともプライドがあるらしく予想に反してよく頑張っていた。
----------------	------------	------	------	----------------------------------------------------------------------

3. 学校支援委員会の体制

氏名	勤務先又は機関・団体名	職名	備考
河目 隆志	三沢高等学校	校長	委員長
宮野 明	〃	教頭	事務局長
福井 武久	〃	教諭	教務主任
佐藤 日出夫	〃	〃	生徒指導部主任
十枝内 淳一	〃	〃	進路指導部主任
円子 真二	〃	〃	渉外部主任
金田 正美	〃	〃	三学年主任
ニッ森 礼子	〃	〃	二学年主任
布施 淳一	〃	〃	一学年主任
堤 孝	〃	〃	英語科科长
高橋 敦子	〃	〃	英語科副科長
三國 里奈	〃	〃	II-7担任
野田 欣一	〃	〃	外国語科主任

4. 活動の評価の工夫と指導の改善

- (1) ハワイでの現地高校生との文化交流で行われる日本文化紹介のプレゼンテーション準備の取組を定期考査の評価に組み入れたので、直前セミナーに対し真剣に取り組むことが出来た。
- (2) ゲストとして参加させた1年英語科生徒にプレゼンテーションについてアンケートを実施し、その結果を班ごとに読み聞かせることにより貴重な反省材料(声量、ヴィジュアルの使い方、役割分担など)を得られた。
- (3) 多くのALTが直前セミナーに参加してくれた。ネイティブの目から見た率直な評価が与えられたことにより、生徒たちも意欲的にプレゼンテーションの改善を行うことができた。
- (4) 直前セミナーの企画、進行を生徒に責任を持たせて行ったことは、単にハワイ語学研修だけに留まらず、広く学校生活の諸行事にも生かされることになった。



楽しかった！ホームステイから無事帰還



金魚ねぶたを作ろう！というプレゼンテーション

5. 活動の成果と課題

- (1) 研修実施した後、生徒の各々が自分の進路に対して真剣に考えるようになった。
- (2) 英語学習について基礎的な知識の必要を再認識できた。特に英語で文章を書くことがそれほど苦痛とは感じなくなってきたという生徒が多く見られた。
- (3) この研修を通してクラスのまとまりができ、言動に落ち着きが見られるようになった。
- (4) 英語運用力についてより大きな成果を求めるという観点から、今後、目的地や実施時期など更に工夫が必要である。